

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	小学館アカデミーしんまるこ保育園
経営主体(法人等)	株式会社小学館集英社プロダクション
対象サービス	保育分野
事業所住所	〒211-0004 川崎市中原区新丸子東2-902-1 アーバンステージ武蔵小杉comodo 1階
設立年月日	平成25年4月1日
評価実施期間	平成25年10月～26年3月
公表年月	平成26年7月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
＜＜総合評価＞＞	
<b>【概要】</b> 小学館アカデミーしんまるこ保育園は、株式会社小学館集英社プロダクションの経営です。株式会社小学館集英社プロダクションは東京都千代田区に本社を持ち、認可、認証保育園を全国に展開中であり、神奈川県では川崎市・横浜市に認可保育園を展開しています。小学館アカデミーしんまるこ保育園は東急東横線新丸子駅から徒歩3分、東横線を南へ250mほど行ったマンションの1階にあります。小学館アカデミー保育園は楽習保育（小学館アカデミー園独自の保育プログラム）を含む一貫した保育理念により全園を運営しています。	
<b>【立地面の特色・とりまく環境】</b> 小学館アカデミーしんまるこ保育園は東横線の新丸子駅が最寄り駅ですが、武蔵小杉駅も近く、園の前の道からは武蔵小杉駅が見えています。川崎市によって川崎駅・新百合ヶ丘駅と並ぶ「広域拠点」に位置づけられた「武蔵小杉駅」周辺エリアは首都圏有数の大規模な再開発事業が進んでいます。新しい街並みが完成に向かうと共に、生活に欠かせない都市機能も充実してきました。今後も予定されている再開発では、メディカルモールを中心とした複合施設や市内最大規模の「新中原図書館」が整備される予定です。新丸子駅前の雑踏と細い道では交通量が比較的多く、お散歩コースの新丸子通り公園までは、駅前を抜けるので交通に注意が必要ですが、子ども達は交通ルールをしっかりと守り、散歩に行く途中のお店に挨拶しながら元気に歩いています。小学館アカデミーしんまるこ保育園の子ども達は、環境に則したマナーを守り、逞しく成長しています。	
＜＜特に良いと思う点＞＞	
<b>●一貫した保育ポリシーと楽習保育のバージョンアップ</b> 建物の設備及び内装については小学館アカデミー保育園としてのノウハウを有し、子どもの保育に最適な設備を備えています。職員は、理念である「あったかい心をもつ子どもに育てる」に共感して入職し、保育園全てがこの理念を念頭に保育を展開しています。「あそび・せいかつ」から「まなび」の体験をする法人独自の取り組みで、その後の学校・社会生活に必要な「人として生きる力の基礎」に繋げています。更に、今年度の評価で昨年度と大きく進歩した点については、①全園長と本部職員との運営事務局会議で決定した統一書式（基本のフォーマット）を、各園が施設運営業務マニュアルに沿って有効に運用し、スムーズな運営が定着しました。②楽習保育については、職員向けの分かり易いレシピが作成され、保護者に対する啓発の冊子が出来上がり、楽習保育が目に見える形で形成さ	

れました。更にレシピの追加に向けて、全園でレシピの発表会を行って行く等、前向きな取り組みが行われています。企業経営の保育園の総合力の強さを活かしています。

### ●一人ひとりを大切に丁寧な保育の推進

この園は、小学館アカデミー南さいわい町保育園で実績を培った園長が就任し、園長の手腕とした、組織・体制作りを活かし、小学館アカデミーしんまるこ保育園の運営にあたっています。創立1年目ですが、年間計画、園での役割担当者として職員の資質を見極め、また、地域性及び保護者の意識等を把握し、「保育の思い」を表現した保育目標は、園長の千里眼と共に完成度高く仕上がっています。この目標に沿って、子ども一人ひとりを大切に丁寧な保育の推進は、既に浸透して実施されています。

### ●特異な形状の住スペースの有効活用

園長は、小学館アカデミーしんまるこ保育園の設計・施工の段階から建設に関与し、園舎は住居用のマンションの1階であり、西側と東側を繋ぐ通路に柱部分があり、凹の字方の通路となっていますが、しかし、このスペースを綺麗なインテリアの隠れスペースへと施しました。これは将来、子どもの安心スペースともなり、様々な活用が考えられ、創造を育むスポットとして可能性を秘め、豊かな感性で園舎が作り上げられています。また、東側のプールスペースと併せて、1年後に子どもたちの反応を聞いてみたいと思います。

## 《さらなる期待される点》

### ●地域資源の有効活用

園としての外遊びの場所は大きな課題だと思いますが、近隣の公園での他園との交流など外遊びに工夫しています。川崎市は保育の長・中期計画で、公立認可保育園についてセンター園・ランチ園構想を持ち、センター園（「新たな公立保育所」の3つの機能の1つ、「公・民保育所人材育成」のセンター型施設が担う機能）・ランチ園（センター型施設と連携調節を行なうランチ型施設）、他、民営化を進めていく計画があります。センター園・ランチ園は地域の中核となり、地域子育て支援を推進し、民間認可保育園も協働を通し推進を図っていきます。川崎市が展開する地域保育園政策の再構築に繋がる政策でもあり、是非、一翼を担い、幅広い交流を持ち、地域の資源を有効に活用して、より豊かな保育の推進を期待しています。

### ●地域との連携

この地域は商業地、マンションが中心の地域であり、地域との連携に時間を要す地域です。しかし、園では、中原区役所子ども支援室が展開する地域子育て事業の一翼を担うアプローチを行い、もう1つは地域の伝統行事等を通し直接、地域へのアプローチの取り組みがあります。これらの取り組みを更に相乗効果を持たせるため、中原区の地域福祉計画に則り、地域活動者やボランティアを活用し、地域の子育て支援の一端を担って頂いたり、地域ぐるみの支援の活動も考えられます。是非、アイデアを駆使し、次期には新たな展開がされていると期待します。

## 評価領域ごとの特記事項

### 1.人権の尊重

●子どもの意思の尊重について、一人ひとりの子どもの様々な事情を考慮し、それらに応じた対応を尊重しながら保育にあたっています。子どもの意向は日々の保育の中から吸い上げ、担任との信頼関係作りに関心掛けています。

●職員は園内研修等で、児童憲章、保育所保育指針、川崎市子どもの権利条例などの確認を行い、子どもの人権を最優先にする保育に努めています。

●プライバシー保護に関する規定があり、特に肖像権については、入園時に書

	<p>面にて保護者の承認を得た上で掲示、掲載をするよう徹底しています。また、対外文書等の個人情報公開等については、保護者の意向の確認等に配慮しながら取り扱っています。</p>
<p><b>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</b></p>	<p>●子どもと担任との信頼関係を基盤にし、子どもの気持ちをゆだねられるような人間関係作りを心掛け、また、クラス担任に拘らず、園全体で関わり、複数の相談相手が見守るような環境づくりを行っています。保護者に対しては、信頼関係作りを心掛け、些細なことも話やすく、相談しやすい雰囲気作りに配慮しています。</p> <p>●職員は、子ども全員の家庭環境、生活リズムを把握し、一人ひとりに対し、1対1の対応を心がけています。またその中で、子どもの要求を受け入れ、気持ちを満たすよう丁寧に関わっています。発達や家庭環境など、気になる子どもについては個別に保育記録を記載し、職員会議などで情報を共有し、園全体で適切な対応に努めています。</p> <p>●受け入れ時には、保護者から職員への連絡帳の手渡しの際に必ず声かけを行い、子どもの状態を口頭で確認しています。全園児が家庭との連絡帳を使用し、保育時間中の職員の交替に際しては、各クラスの引き継ぎノートを活用し、降園時には口頭にて確実に保護者に連絡事項等が伝わるようにしています。</p> <p>●延長保育については、子どもの人数が少なくなった時点で乳児、幼児合同保育とし、ゆったりとした環境で落ち着いて過ごせるような配慮を行っています。早朝、夕方の時間も子どもが不安な気持ちにならないよう、1対1の関わりを大切にしています。乳児、幼児合同保育時には、遊びの種類を工夫し、数種類の遊びを設定する中で、保育士が仲立ちになり、異年齢での遊びを楽しめるよう配慮しています。</p> <p>●食事は、各クラス、小人数のグループを作り、保育士、栄養士が付き、楽しい雰囲気を中心掛け、落ち着いた雰囲気の中で食事ができるように配慮しています。</p>
<p><b>3.サービスマネジメントシステムの確立</b></p>	<p>●中原区役所子ども支援室に園のパンフレットを置き、地域の方に園の情報提供をしています。園見学者については、月2回程度の園見学説明会を開催し、園舎の案内、保育内容の説明、質疑応答を行っています。保護者には、その日の保育の内容や保育に関する話題を、写真を用いて掲示すると共に、園のブログで園の様子を紹介しています。</p> <p>●各年齢とも保育課程を踏まえ、養護、教育、各領域を考慮した指導計画を作成しています。乳児は個別の保育計画を作成し、幼児については各年齢、クラスの状況に合わせた指導計画を作成すると共に、必要な場合は個別の配慮事項を加え、個々に合ったきめ細かい指導計画となるよう心がけています。</p> <p>●施設運營業務マニュアル及び配属前研修資料が整備され、サービスの実施方法が文書化され、サービスの標準化の展開が全保育園で図られています。保育課程については、法人本部で標準的な統一の保育課程をもとに、園独自の保育課程を掲げ、それに基づき年間指導計画等に展開し、保育を行っています。</p>

	<p>●苦情解決の仕組みについては、苦情担当窓口を設置し、苦情解決責任者、第三者委員、法人の苦情担当窓口等の掲示を行い、直接苦情を申し出る事が出来ることを入園のしおり等でお知らせしています。意見箱を玄関に設置し、いつでも意見が入れられるよう取り組む体制があります。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<p>●中原区役所こども支援室の広報に地域交流事業の案内を毎月掲載し、地域の方に園の取り組みを知らせています。毎月園で行う「お話し会」では1回10人位の見学者が参加しています。</p> <p>●地域の子育て支援に積極的に取り組み、各伝統行事、毎月の交流保育、子育て支援行事、身体測定、誕生会について地域の方々に案内しています。</p> <p>●ボランティアの受け入れについては、園の保育方針に加え、明文化されている「ボランティアの心得」を基にオリエンテーションを行った上で、積極的に受け入れを行っています。</p> <p>●地域の連絡機関との連携については、中原区の公私立園長会において、民生委員、児童委員との定期的な会議や幼保小連携会議に参加し、近隣小学校との連携や交流計画についての話し合いを行い、具体的な子育てニーズの把握や地域のニーズを確認し合い、取り組みの情報収集に努めています。</p>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>●保育理念、保育方針は園のパフレット、入園のしおりに記載し、更に園内数か所に掲示し、常に目に着くようにしています。職員は法人本部の配属前研修で理念、保育方針について、説明を受け、更に園でも新年度の職員会議で全員が再度確認し、保育指導計画に反映しています。</p> <p>●園長の役割、責任、職務は、法人の管理規程にて明文化され、その責務について園内研修の保育所保育指針勉強会の場などで職員に対し表明し、説明を行っています。園長は、保育サービスの質について常に気を配り、課題を抽出して改善に努めています。業務の効率化については、問題意識、改善意識が必要と考え、積極的に取り組み、指導力を発揮しています。</p> <p>●開園1年目の今年は、第三者評価を受審し、今後も外部による評価を行う予定です。第三者評価結果では、職員参画による結果の分析を行い、課題を文書で示し、全職員で共有し、改善に向けた取り組みを実施していく予定です。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<p>●法人として、小学館アカデミー保育園に勤める職員としての行動目標を示し、専門性・社会人性・人間性を総合的に判断し、一般職員から主任、園長への人事管理へとつながる考え方を定めています。</p> <p>●園長は、職員とのヒアリングを行い、職員一人ひとりに対して課題を設定し、それに基づいて研修計画を作成しています。その計画に沿った内容の研修を案内し、職員は積極的に研修に参加しています。</p> <p>●職員の就業状況や、意向を把握し、休暇等福利厚生確保に努めています。職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータを定期的にチェックし、分析した結果を本部施設担当者と共に検討し、人員体制に関する具体的なプランへ反映させています。</p>

